

広くてしょっぱい水たまり

N (ナレーション)

ウツボ

チョウチンアンコウ

ミズクラゲ

イソギンチャク

ヤドカリ

ヒラメ

カレイ

タイ

第一話

N 海の底の岩場の陰で、ウツボちゃんはくよくよと悩み続けていた。

ウツボ ……あたしの顔って、そんなにこわいのかしら……。

N こう見えても案外気立てのいいウツボちゃんは、つい先ほどもイワシの群れに「こんにちは」と挨拶をした。けれどウツボちゃんが顔を出した途端に、イワシたちは「こわっ！」と叫んで一斉に向きを変え、あつという間に遠くへ逃げて行ってしまった。

ウツボ ……ちよつと笑顔が足りなかったのかもしれないわ。

N そう勘違いしたウツボちゃんは、一生懸命かわいい笑顔を作る練習をした。しかし海の中にはあいにく鏡がなかったので、うまく笑顔が作れるようになったかどうか自分では確かめようがない。そこでウツボちゃんは、親友のアンちゃんを訪ねることにした。

ウツボ ねえ、アンちゃん。起きてる？ ちよつといい？

アンコウ 寝たけど別にいいわよ。なあに？

ウツボ あたしの顔をよーく見ててね。

アンコウ ちよつと待って。今、灯りをつけるから。

N チョウチンアンコウのアンちゃんはそう言って、おでこに生えている竿の先のランプにぼわんと灯をともした。そのかすかな光を浴びながら、ウツボちゃんは精一杯の笑顔を作った。

ウツボ (笑顔のまま) どうかしら？

N 目の後ろまでクワつと開かれた大きな口から鋭い歯をのぞかせている。そんなウツボちゃんを、注文通りによく見てからアンちゃんは言った。

アンコウ ……うん。いいんじゃない？ とつても迫力がある。

ウツボ あたしがほしいのは迫力なんかじゃないのよー！

アンコウ 威圧感もあったわよ？

ウツボ (ため息) かわいい笑顔には程遠いってことね……。

N アンちゃんは一瞬耳を疑った。「あれで可愛い笑顔を作ったつもりだったのか」

と軽い衝撃を受けた。けれど、親友のデリケートな一面をよく知っていたアンちゃんは、それを口にも表情にも出さなかった。

アンコウ ……また誰かになにか言われたの？

ウツボ ……イワシさんたちが「こわっ！」って。

アンコウ あの子たちは弱虫だからたいていの生きものがこわいのよ。

ウツボ みんなあたしを見て青い顔してた……。

アンコウ 青魚だからよ。

ウツボ それにね、噂話を聞いちゃったの。

アンコウ どんな？

ウツボ あたし……「海のギャング」って呼ばれてるらしいの……。

アンコウ それは噂話じゃなくてたとえ話なんじゃない？

ウツボ どっちにしろ、それだけあたしがこわがられてるってことでしょうか？ あ

んまりだわ。大体「ギャング」って何よ！

N ギャングとは、組織的な強盗団や暴力団のことである。

ウツボ あたし、悪いことなんてなんにもしないのに……。

アンコウ ……でも時々噛みつくじゃない。

ウツボ あれはパニックっちゃった時だけよ！

アンコウ 大きな口あけて「シャーッ！」て威嚇しても、相手が立ち去らないとガ

ブリって。

ウツボ だってどうしたらいいかわからなくて……。

アンコウ 自分がその場から逃げようとは思わないの？

ウツボ ……（しばらく考えてからきっぱりと）思わないわ。

アンコウ そうか。じゃあしようがないね。

ウツボ でもでも！ あたし毒は持っていないのよ？

アンコウ けどあごの力が強いでしょう？ 噛まれた方は深手を負うのよ。

ウツボ わかったわ……。もう噛まないようにする。いざとなったら自信ないけど。

アンコウ 噛みたい時は噛めばいいじゃない。あたしが言いたいのね、噂話なん

て気にするなっことよ。

ウツボ ……あたし、アンちゃんの噂も耳にしたの。

アンコウ あら。なんて？

ウツボ アンちゃんは……「海のフォアグラ」って呼ばれてるみたい……。

アンコウ ……「フォアグラ」ってなあに？

ウツボ 知らない……。

N フォアグラとは、太らせたガチョウの肝臓のことで、キャビア、トリュフと並ぶ世界三大珍味の一つである。

ウツボ ……でもきつとギャングよりはずっといいものよ。

アンコウ どうだかわかんないわよ？ あたしみたいな丸っこいデブっちょのことをそう呼ぶのかもしれないし。

N 「海のフォアグラ」とは、アンコウ自体を例えたものではなく、その肝臓、いわゆる「あん肝」の比喩的な表現である。

ウツボ だとしたって、犯罪者扱いされるよりマシじゃないの。「フォアグラ」ってちよつと響きもかわいいし……。いいなあ、アンちゃんは。そんな素敵なあだ名で呼んでもらえて。

アンコウ そう言われるとなんか悪い気はしないけど。

N アンコウとチョウチンアンコウは、名前を含めて多少は似ているところがあるものの、姿かたちから生態までまったく異なる生きものである。そして高級食材として好まれるあん肝がとれるのはアンコウの方だけなので、食用に適さないチョウチンアンコウのアンちゃんは、残念ながらあらゆる意味で「海のフォアグラ」には当てはまらない。

ウツボ ……やっぱりするいわ。アンちゃんばかり。

アンコウ なにが？

ウツボ あたしはあなたのことを可愛らしく「アンちゃん♪」て呼んであげてるのに、アンちゃん、あたしのことなんて呼んでる？

アンコウ ……ウツ坊。

ウツボ よく考えたらそれって「憂鬱な坊や」みたいじゃない？ ひどいわ！ あたし一応年頃の女の子なのに！

N ウツボちゃんが「キーツ！」と叫びながらのたうちまわり出したので、「このままでは嘔まれる！」と身の危険を感じたアンちゃんは、ウツボちゃんのことを必死になだめた。

アンコウ ゴメンゴメン、気づかなかった。わかったから落ち着いて！ じゃあさ、これからはなんて呼ぼうか？

ウツボ そうねえ。「ウツボちゃん」じゃありきたりだし……。

アンコウ 「ウツツン」は？

ウツボ ……そこはせめて「ウツちゃん」じゃないの？

アンコウ じゃあ「ウツちゃん」でいい？

ウツボ その「ウツ！」っていうのがなんか苦しげでイヤなのよねえ。

アンコウ そうかあ……。

N 二匹が頭を悩ませているところへ、ミズクラゲのクラヤんがゆらゆらと流されて来た。

ウツボ あら、クラヤんじゃない。

クラゲ こんにちは。

アンコウ ちょうどよかった。あのね、クラヤん。今あたしたち……、

クラゲ さいなら。

N 潮の流れにまかせてそのまま通り過ぎていこうとするクラヤんを、二匹は慌てて連れ戻した。

アンコウ 「さいなら」じゃないわよ。まだ話の途中でしょ？

クラゲ なに？

アンコウ 今ね、ウツボ…ちゃんの新しい呼び名を考えてたんだけど、クラヤんは、

どんなのがいいと思う？

クラゲ ウツ坊。

アンコウ う、うん。それじゃないヤツで。

クラゲ ふくん。……ちよつと長くなってもいいの？

ウツボ 全然かまわないわよ？

クラゲ それなら、「海のギャン……」

N クラヤンがそのNGワードを言い終わってしまう前に、アンちゃんは大きく、どこにあるかもよくわからないクラヤンの口をふさいだ。

アンコウ えーつとね！ もっとかわいいのがいいんだって！

クラゲ かわいいく？

ウツボ そうなの。せめて呼び名くらいはね。だってあたし、このとおり見た目がこわいでしょ？

クラゲ こわいとかかわいいとかって、おいらよくわかんないなあ。おいらには「いい感じ」と「それでもない」の二つしかないからさあ。

ウツボ じゃあどんな名前がいい感じかしら？

クラゲ そうだなあ。

N 少しずつ海流に流されながら、しばらく考えた末にクラヤンはこう言った。

クラゲ やっぱりおいらは「ウツ坊」がいいと思うな。うん。「ウツ坊」はいい感じだよ。じゃあね。

アンコウ ……行っちゃったよ……。

ウツボ ……アンちゃん。やっぱりあたし、これまで通り「ウツ坊」のまんまでいいわ。

アンコウ クラヤンも「いい感じ」って言ってくれたもんね。

ウツボ て言うか、クラヤン見てたら、かわいいとかこわいとかがどうでもよくなってる。

アンコウ そうでしょうね。

ウツボ それに、このこわい顔のおかげで、アンちゃんとも親友になれたんだし。

アンコウ そうだったわね。初めて会った時は、お互いギョツとしたけれど。

ウツボ こわい顔の者同士って、すぐに仲良くなれたのよね。

アンコウ 結局考え方しだいでしょ？ なにがいいとか悪いとかなんて。

ウツボ ……ねえ。今からちょっと遊びに行かない？

アンコウ いいわよ。なにして遊ぶの？

ウツボ 岩の陰で待ち伏せしておいて、通りかかった誰かを脅かしてやるの。

アンコウ うまく驚いてくれなかったら、また噛みついちゃうんじゃない？

ウツボ あら。噛みつきたい時は噛みついていいんでしょう？
アンコウ そうよ、ウツ坊！ その調子！

N こうして二匹は笑いながら、その気の毒な誰かを探しに、海の中を楽しそうに泳いで行った。

第二話

N 竜宮城の楽屋で、ヒラメちゃんは今日も入念に柔軟体操をしていた。するとそこへ、イソギンチャクのマダム・ギンがノックもなしに飛び込んできた。

ギン 大変よ、ヒラメニーちゃん。今日、タイリーンちゃんお休みですって！

ヒラメ えっ！ タイちゃん、どうかしたんですか？

ギン 昨日、怪我しちゃったらしいわ。

ヒラメ 怪我？ どこを？

ギン えーっと確かね……。

ヤドカリ 尾びれだそうです。

N マダム・ギンを乗せた巻貝の中から、ヤドカリが静かに答えた。

ギン そうそう。尾びれをね、ウツボに噛まれたんだって。

ヤドカリ なんでも、チョウチンアンコウさんとの挟み撃ちに遭われたそうで。

N ヤドカリの貝殻にイソギンチャクがはりついて行動を共にしているのは、お互いそれなりのメリットがあるためだ。ヤドカリはイソギンチャクの毒で敵から身を守るし、自分で移動できないイソギンチャクは、さまざまな場所に運んでもらえる。

ヒラメ それで、怪我の具合はひどいんですか？

ギン ううん。大したことはないらしいの。

ヤドカリ でも大事をとって、今日はお休みなさりたいと。

ギン ちよつとヤドカリーヌ！ 今あたしが話してるんだから口をはさまないでちようだい。

N お互いにメリットがあるのなら、両者の立場はまったくイーブンのはずなのだが、貝の上に乗っているイソギンチャクのマダム・ギンは、物理的に上から視線になるためか、なんだかいつもいばっていた。一方、ヤドカリの方はと言えば、ヤドカリ すみませんでした、マダム・ギン。

N そんなマダム・ギンにおとなく従がっていた。一生宿を借り続けるという生き方がそうさせるのか、ヤドカリはいつでも控えめだった。

ギン そういうわけだからヒラメニーちゃん。今日のステージはタイリーンちゃん抜きよ。

ヒラメ 中止には出来ないんですか？

ギン 出来っこないわ。「タイとヒラメの舞い踊り」は、竜宮城ショータイムの中でもメインのプログラムなのよ？

ヒラメ だけど、肝心のタイちゃんがないんじゃないか……。

ギン こうなったら代役を立てるしかないわね。

ヒラメ そうだ！ マダム・ギンとヤドカリさんが一緒に踊ってください……。

N マダム・ギンはそれを否定するかのようには、数え切れないほど生えている細い触手を一本だけ、指の代わりに「チツチツチ！」と揺らした。

ギン あたしは踊り手じゃなくて振付師だもの。あくまでも裏方よ。

ヒラメ でも代役なんて他に誰がいるんです？

ギン そこなのよ問題は。ヒラメニーちゃん、あなた誰か心当たりない？

ヒラメ タイちゃんくらい踊れる子なんて、あたしの知り合いには……。

ギン この際、知り合いじゃなくてもかまわないわよ？

ヒラメ ……知り合いじゃない子のことは知らないもので……。

ヤドカリ ……あの、カレイさんをお願いしてみてもいいかがでしょうか？

ギン カレイ？

ヤドカリ はい。カレイさんはヒラメさんとよく似ていらっしやいますし。

ヒラメ でもカレイさん、踊れるかしら？

ヤドカリ おふた方が左右対称に並ばれるだけでも、それはそれで見応えというか、舞台映えするのではないかと。「左ヒラメに右カレイ」という言葉もあるくらいで

すし。

N 「左ヒラメに右カレイ」とは、別に見応えのことを言い表した言葉ではない。単にヒラメとカレイの見分け方のことで、一般的には、腹を手前に置いて左に顔があるのがヒラメ、右にあるのがカレイと言われている。

ヒラメ なるほど。ステージに並ぶだけでシンメトリーのフォーメーションが出来上がるってわけですね？

ギン ビュークティフルなアイデアよ、ヤドカリーヌ！ あなたもたまには気の利いたことを言うじゃないの！

ヤドカリ 恐れ入ります。

ギン そうと決まれば、早速カレイちゃんをスカウトしに行かなくっちゃ！

N こうして一行は、出演交渉するためにカレイさんのもとへ出向いていった。けれど「海の忍者」と呼ばれるほど隠れ上手なカレイさんを、なかなか探し出すことはできなかった。

ヒラメ 多分この辺りのはずなんですけど……。

ギン 「左ヒラメに右カレイ」って言うならもつと右の方なんじゃない？

N だからそれは見分け方のことで、居場所を言い当てる言葉ではない。

ヤドカリ あれじゃありませんか？ ほら、砂の中から目玉が二つ飛び出ています。ヒラメ ほんとだ！

ギン 今日はお手柄続きね！ ヤドカリーヌ！

N 砂地にもぐりこんでいたカレイさんが、めんどくさそうに姿を現した。

カレイ ……なによ「ヤドカリーヌ」って。変な名前。

ヤドカリ その名前で私をお呼びになるのはこちらのマダム・ギンだけなのですが。ギン はじめまして、カレイちゃん。あたしは振付師のマダム・ギン。あなたのこと、「カレイン」って呼んでもいいかしら？

カレイ お断りよ。

N 再び砂の中に隠れようとするカレイさんを、ヒラメちゃんはあわてて引きとめた。

ヒラメ 待つて待つてカレイさん！ お休みのところ悪いんだけど、同じ平べったい体のよしみであなたにお願いしたいことがあるの。

N ヒラメちゃんはカレイさんにひととおり事情を説明した。

カレイ 舞い踊るなんて無理よ。あたし、あなたみたいに筋肉質じゃないし。

ヒラメ 踊る必要なんて全然ないの。あたしと並んでステージに上がってくればそれだけで。

カレイ そんなのただの見世物じゃない。だったら尚更無理な話ね。あたしはね、

「左ヒラメに右カレイ」とかなんとか言われて、あなたと比べられるのには飽き飽きしてるの。

ギン 気持ちはわかるわよ、カレイン。お客様の前に出る勇気がないんでしょう？

あなたは隠れんぼ上手の恥ずかしがり屋さんですものね。でも必要なのは勇気じゃないの。情熱なのよ！

ヒラメ ステージの上からしか見えない景色があるんですよ、カレイさん！

カレイ なにを言われてるのかまったくわからない。

ギン さあ、カレイン！ だまされたと思って！

ヒラメ そうですよ、だまされたと思って！

カレイ なんであたしがだまされたと思わなきゃいけないのよ！

N 代役作戦が暗礁に乗り上げつつあるその真っ只中に、ミズクラゲのクラヤンがゆらゆらと流されて来た。

クラゲ こんにちは。

ギン いいところに来てくれたわ、クラヤンゲール。あなたからもカレインを説得してちょうだい。

クラゲ 「クラヤンゲール」ってなに？

カレイ 誰が出てこようと無理なものは無理なの！

ヤドカリ マダム・ギン、ヒラメさん。そろそろお戻りにならないと。

ギン (無念そうに) ……タイムアップね……。

N ヤドカリの冷静なひと声を合図に、マダム・ギンとヒラメちゃんは、意味不明なたたみかけによるカレイさんへの勧誘をあきらめた。

ヒラメ ごめんなさいね、カレイさん。突然押し掛けてきて無茶を言って。

カレイ どういたしまして。こちらこそなんのお力にもなれなくて。

ギン さあ、行きましよう。急いで振付を変更しなきゃ。

ヤドカリ カレイさん。ひとつ質問してもよろしいですか？

N 帰りかけていた足をとめて、ヤドカリがカレイさんに尋ねた。

カレイ なによ。

ヤドカリ カレイさん本当は「舞台に上がってみてもいい」とお考えなのではないですか？

カレイ はあ？

ヤドカリ 砂に隠れる毎日に退屈なさっているのでは？ 私が近寄ったとき、わざ

と目玉を出してくださいましたよね？

カレイ 違うわよ、あれはたまたま……。

ヤドカリ それに、「舞台なんて無理だ」とは何度もおっしゃいましたが、「イヤだ」とはひとこともおっしゃっていませんね。

ヒラメ 本当だ！ 言っていないわ！

ギン 大した名探偵ぶりよ！ ヤドカリーヌ！

カレイ ……確かにこんな地面を這いまわる毎日は退屈だし、たまにはなんか刺激がほしいなーとか思うことはあるけど……。

N その時、ミズクラゲのクラヤんがひらひらと舞い降りてきて、ちよっぴり本音をもらし始めたカレイさんの背中をちよいとつついた。

カレイ 痛っ！ ちよっとなにすんのよ！

クラゲ なんか刺激がほしって言わなかった？

カレイ あんたのこれ、刺激っていうより毒でしょう!?

クラゲ そうだね。

N つついたのではなく、刺していたようだ。

ギン 困った照れ屋さんね、カレイン！ さあいらっしゃい！ あなたの求めてい
る刺激はこっちよ！

ヒラメ いきましよう！ カレイさん！

ヤドカリ どうぞ。ご一緒にまいりましょう。

クラゲ さいなら。

N クラヤン以外のみんなから歓迎を受けたカレイさんは、照れくさいやらうれしいやら刺された背中が痛いやらで、一瞬また砂の中に隠れたくなったが、それをなんとかこらえてこう言った。

カレイ ……右側に……並ぶだけで…踊らないからね？

N こうして新しい仲間が加わった一行は、早くも踊るようにしながら竜宮城へと戻っていった。

第三話

N ミズクラゲのクラヤンが、いつものように潮の流れにまかせてゆらゆら漂っていると、マダイのタイちゃんが元気よく泳ぎながら現れた。

タイ ハイ！ クラヤン。

クラゲ こんちは。

タイ 相変わらずふわふわして暇そうだね。

クラゲ タイちゃんは暇じゃないの？

タイ 暇じゃないよ。今日もこれから踊りの稽古だし。

クラゲ あれ？ ウツ坊に噛まれてお休みしてるんじゃないか？

タイ そうなんだよ！ ガブリってやられたの！ ほら見て？ この尾っぽのどこ。

N クラヤンはタイちゃんがつき出した尾びれをじっと見た。

クラゲ ……かすり傷だね。

タイ なんか遊び半分だったみたいでさ、この程度ですんだんだよね。でも怖かったよ。ウツボとチョウチンアンコウの恐ろしい顔二つにはさまれて。もう声も出せずに固まっちゃった。

クラゲ じつとしてると噛まれるよ。

タイ え、そうなの？ なんだー、そういうの早く教えてよー。

クラゲ 本気出されたらひとたまりもないよ。

タイ だろうねえ……。ま、とにかくそんな目にあったからさ、昨日はちよつとお休みをいただいて、ちやつかりデートに出かけてたつてわけ。あ！今のマダム・ギンには内緒ね？

クラゲ 「マダム・ギン」てなに？

タイ ……ほんと、なんだろうね。イソギンチャクなのに「マダム」とかって……。あたしのことも「タイリーン」とかわけのわかんない名前で呼んでるし……。

N タイちゃんがマダム・ギンの謎に思いを馳せている間に、クラヤんの体は少しずつゆらゆらと海流に流され始めた。

タイ クラヤん、これからどこ行くの？

クラゲ さあ。おいらにはわかんないんだ。

タイ 気ままでいいねえ、クラヤんは。あたしは今日からまた踊らなくっちゃ。なんてったって「タイとヒラメの舞い踊り」だからさ。やっぱりあたしがいないとカッコつかないでしょ？ 昨日のステージ、散々だったらしいからね。そうだ。

クラヤんも一回くらい観に来てよ。

クラゲ いいよ。

タイ 約束ね！

クラゲ わかった。うまく潮の流れにのれたらね。

タイ それじゃ約束にならないじゃん。

クラゲ さいなら。

N ミズクラゲのクラヤんはそう言いながら、光りのさす明るい方へ、ふわふわと舞いあがるようにのぼって行った。

タイ バイバイ！ またどこかでねー！

N クラヤんの姿が光りに透けて小さくなるのを見送ってから、タイちゃんは再び元氣よく仲間たちのもとへ泳いで行った。